

千歳市を盛り上げる 活動をしていきたい

み おうぎ たかひと
巴扇 隆人 さん
(巴千 代表)



千歳市出身／春日町在住／41歳／市内の農地で栽培した野菜を保存するため、10年前から乾燥野菜作りを開始。その後、燻製作りを始め、5年前に起業／これまでに、千歳イルミネーションフェスティバル、地域クラウド交流会などに関わり、千歳のまちづくりに貢献

PEOPLE の窓

みなさんの活躍
紹介します

——どのような事業プランを提案しましたか
塩を燻製にかけてスモークの風味を付けた燻製塩をベースに、千歳産の行者にんにくを乾燥して粉末化したものを混ぜ、燻製行者にんにく塩を作りしました。いろんな人に千歳の事を知るキッカケになるような、千歳ならではの商品を提案しました。

——コンテストに出場した感想をお聞かせください
本格的な事業計画書の作成や、ビジネスやまちづくりの第

一線で活躍されている審査員の方々に前にしてのプレゼンは、この機会でしか得られない貴重な経験だと思いました。

——商品の特色は何ですか
塩自体に優しいスモークの香りが付いているので、仕上げ用の塩としてステーキや刺し身、たまごかけご飯に振りかけると簡単に燻製を楽しむことができます。

——事業プランの今後の展望をお聞かせください
今は商品ブランド（北海道くゆる）を作り直している最中で、夏以降を目安に販売を予定しています。店舗は持たず、ネット販売を中心に売り出していきます。

——今後、市中心部（まちの顔エリア）をどのように活性化していきたいですか
今回のビジネスコンテストがキッカケとなって、まちの顔エリアを含む千歳市を盛り上げたいと思っています。将来は千歳の名産品になれるような商品化の準備を進めていき、同じ考えを持った人たちと連携したり、地元飲食店に提供するなどして、まちの顔エリアの活性化に寄与していきたいです。

先生、教えて!



COPDについて



市立千歳市民病院
診療部長(内科系担当) 竹藪 公洋

今回はCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の診断、治療などについてお話しします。

COPDは、長期間にわたりタバコの煙を主とする有害物質を吸入することで中高年に起こる一種の生活習慣病です。

気管支が炎症、細くなることで咳や痰が出たり空気の流れが悪くなったりするほか、肺胞という袋の壁が壊れることで酸素の取り込みや二酸化炭素の排出ができなくなり、息切れが徐々に進行し、喘息のような症状を出すこともあります。

診断には呼吸機能検査が必要ですが、ヘビースモーカーの方には、肺のCT検査をお勧めします。なぜなら、症状が軽い段階での早期の肺気腫病変をCTで検出できること、それに加えて、合併が多い肺癌の発見に役立つからです。

治療は、大切なのは何と云っても禁煙ですが、薬剤

治療では気管支拡張薬の吸入薬が中心となります。喘息を合併する方や頻回に増悪しやすい方には吸入ステロイドを併用することもあります。COPDを悪化させないようインフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチン、最近発売されたものではRSウイルスのワクチンの接種も重要です。

薬剤以外の治療では、呼吸理学療法（□すぼめ呼吸、腹式呼吸）、運動療法、栄養療法などがあります。「息切れするために運動をせず筋力が低下する」「食欲が落ちて体力が低下する」といった悪循環にならないために、身体活動性を維持することが大切です。

肺の機能が低下し、体が酸素不足を起こしたり、体に二酸化炭素がたまったりすることがあります。そのときは、自宅でも酸素吸入（在宅酸素療法）や人工呼吸器（NPPV）を使用することで家庭生活を続けることができます。